

古生物の歴史を地球規模で探る！

高知大学理学部では、近藤康夫(古生物学、二枚貝)、岩井雅夫(微古生物学、珪藻)、奈良正和(生痕学)の3名の教員が連携して古生物学の教育研究を担当していて、海の古生物を幅広く学ぶことができます。

この研究室で学んでみたいあなたは、きっと期待以上の成果が得られるに違いありません！近藤研究室の研究生は、4年生2名と大学院生5名そして教官3名の計7名。少数だからこそ、結束の固さと自由さが大きな魅力(笑)なのです！

実はとても歴史のある研究室で、戦後の地方大学創設期、当時の文理学部だった時代に、地質や巣穴研究の第一人者で地学教室のルーツでもある甲藤次郎先生からスタートしています。その後白亜紀二枚貝研究で有名な田代正之先生より今にいらっています。

わが進化古生態学研究室の主な研究テーマは、海の無脊椎動物の古生態学で、[1]二枚貝類を中心とした浅海域底生動物群の古生態と進化、特に生息地の拡大・変遷過程の解明 [2]現代型動物群の形成過程と古環境背景に分かれます。学生たちと一緒にケーススタディでフィールドに出たり、いろんな化石をクリーニングしたり、模型を作ったり…。また、顕微鏡で心ゆくまで(笑)観察したりと、心を古き時代へとさかのぼらせ、化石図鑑と睨めっこする愛しき日々を過ごしているのです。

アンモナイトを
抱えて…。
ん…重い！

海底の固い泥を漂白剤で
溶かすと、成分の分類が
しやすくなるのです！



▲床一面に貼られた四国の地質図の上でメンバーたちと。



▲化石の顕微鏡観察



海底の堆積物中の
微化石(プランクトンの遺骸)
を小分けにしています。



高知大学で、古くから
継続的に研究をしている
九州天草地域で採取した
二枚貝化石



近藤先生の笑顔が
研究室の癒しになっています。

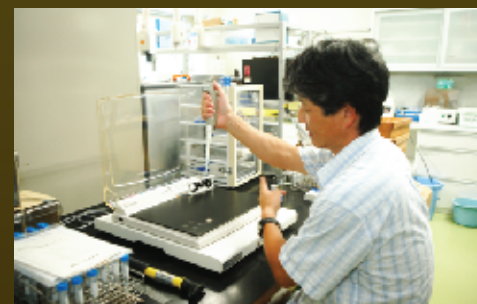


この瓶の中に入っているものは何でしょうか？

古生態学の近藤です！1959年に岐阜県で産声をあげた私は、学生時代から地学に没頭！？静岡大学、東京大学大学院、日本学術振興会特別研究員(京都大学)、千葉県立中央博物館研究員を経て、平成3年4月に高知大学に赴任しました。

この20年間、学生たちとともに、地球の歴史を振り返りながら、さまざまな底生動物の生態と進化について研究を重ねてきましたが、まだまだ興味は尽きません(笑)。

【教員：近藤 康生】



▲観察用プレパラートスライドで準備しています。



▲地球の歴史が一つひとつに刻まれた化石群…
太古の浪漫を感じますね。